

平成29年度第2回坂井輪地区公民館運営審議会 会議録

実施年月日	平成30年3月5日(月)午後2時～		
会場	坂井輪地区公民館 4階 講座室1	出席委員 8名	傍聴人 0名
委員	郷扶二子、江端明夫、内木正宏、佐藤信哉、高橋真規子、横坂幸子、渡辺 瞳、渡辺正友、石川 潤(欠)、松尾雅美(欠)		
	事務局	坂井輪地区公民館	阿部靖壽、白井嘉弘、高橋勇人
		西地区公民館	玉木芳博、今城敬子
		黒埼地区公民館	鳴海俊明、小竹憲幸
		小針青山公民館	河原貢司、渡邊ますみ
議題	1 平成29年度西区公民館事業経過報告について 2 平成30年度西区公民館事業計画(案)について 3 その他(意見交換) ・正副議長会議報告及び当面の検討事項について		
阿部館長あいさつ			
郷議長あいさつ			
審議内容について以下に記載する。			
1 平成29年度西区公民館事業経過報告について 2 平成30年度西区公民館事業計画(案)について			
坂井輪地区 西地区 黒埼地区 小針青山 各公民館長	西区各公民館長から平成29年度西区公民館事業経過報告及び平成30年度西区公民館事業計画(案)について説明。質疑応答。		
3 その他(意見交換) 正副議長会議報告及び当面の検討事項について			
郷議長	では、その他の意見交換に移ります。今年度、11月14日に行われました「正副議長会議の報告及び当面の検討事項について」、まず事務局から説明をお願いいたします。		
坂井輪地区 公民館 阿部館長	それでは、「公民館運営審議会正副議長会議」という資料を基に中央公民館から冒頭に説明があって、資料1の公民館の設置数や職員数、予算の説明があった。公民館のあり方、今後について分館も指定管理はという意見聴取がありました。そのほか、事業費について、資料9事業予算が減少する一方、西新潟オープンカレッジのように実行委員会形式で受講料を有料化する方法もあるとの話がありました。  講座は受益者負担が必要という話もあったが、家庭教育学級は、重点的にやってきた事業で、母子家庭もたくさんあるし、その受益者から負担を取るのはいか		

	<p>がかという話が大方で、もし受益者負担を取るのであれば、ほかの事業からにしてはどうかという意見がありました。</p> <p>家庭教育学級の事業費は、前年度の 92.5 パーセントで、手厚く予算がついている。保育にかかる経費が不足するのであれば、子どもの数を調整し、保育者の数を減らす対応を考えてほしい。</p> <p>それから、分館の委託に関し、黒埼南部が委託を受けて実施している。立仏ふれあい協議会に黒埼北部公民館の管理を委託という状況もあるが、市民サービスコーナーが併設されていて、話が進まない状況です。</p> <p>それから、西地区公民館の分館の赤塚公民館、中野小屋公民館の管理を、シルバー人材センターに委託しているが、地元のコミュニティ協議会に管理委託の協議中です。</p> <p>この会議に江端副議長から一緒に出ていただいたのですが、何か追加で説明はありますか。</p>
江端副議長	<p>議長の代わりに出させていただいたが、西蒲区の漆山とか、小さい公民館ではほとんど利用者がなく、開館している意味がない館が段々増えてきている。公民館としては大変だなという意見をいただいた。黒埼南部公民館は、利用者がいるが、小さいところは今後どうするのか、今後の課題になるという話がありました。</p>
坂井輪地区 公民館 阿部館長	<p>それぞれの公民館で工夫をしながら事業を組み立てていくということで、坂井輪地区公民館の事業計画の中で子どもを対象とした事業、子ども体験学習とか、親子の居場所などというものは、新潟大学の学生のグループが、ぜひ坂井輪地区公民館で協力したい話があるので、予算がかからない中で新たな事業を入れていくということも必要。新年度は、今の計画もはっきりしていない中で、いくつかそういう事業を考えています。</p> <p>受益者負担というのは、持ち帰るもの、口の中に入るものは、当然実費として参加者から負担してもらっても、そのほかに関して、受益者負担はなかなか難しく、今後の課題ですが、その辺で何かいいご意見がありますか。</p>
郷議長	<p>今、事務局から、正副議長会議の報告がありまして、皆さんにぜひ、利用者、また稼働率が少ない公民館の運営方法についてのご意見等をもらいたいということでした。</p>
横坂委員	<p>講座の方法、やり方についてもっと市民や民間の力を借りられないかとあるのですが、どの辺りの世代を考えていらっしゃるのでしょうか。</p>

<p>坂井輪地区 公民館 阿部館長</p>	<p>ターゲットをどの年代に絞るかということは非常に難しいところで、公民館利用者は高齢の方が非常に多い。農業体験の講座は定員オーバーなのですが、高齢の方が多。来年度は多世代ということで、若い人も募集したら、初めて40歳代の方の申し込みがあった。</p> <p>子どもを対象にすると、夏休みや春休みにしかできないので事業の組み立てを工夫したい。</p>
<p>横坂委員</p>	<p>先ほど言われた、40歳代などが来られると、嬉しくなるという感じですね。スマホなど、自分で学習することができるので公民館に行かなくても、自分の家で知りたいことは調べられるようになった。</p> <p>若い人とか40歳代の人たちをどのように呼び込むかということのを新しく考えたら、公民館のいいところは、職員がいて、職員のところに行けば知恵が入る。人材バンクが公民館の職員の中にあるという感覚は私はあると思うのです。</p> <p>お母さんや30歳代、40歳代の方が外から入ってきたら、何か少しお茶が飲めたり、会話が弾んで今度はあれをやってみようかというような、次のステップに行く場が公民館の中に必要ではないかと最近感じている。</p>
<p>坂井輪地区 公民館 阿部館長</p>	<p>親子で参加できる体験学習をやり、お父さん、お母さん方も来られるような事業の実施やフリースペースのPRチラシを作って配布し、若い人から足を運んでもらいたいということをやっています。</p>
<p>横坂委員</p>	<p>子どもと集まりたいという人もたくさんいます。</p> <p>子育て期間で、子どもと離れて、ボランティアや企画をしたいという人が多い。今の新しい人たちは、子育ては仮の姿で自分自身を活かしたいという、そのエネルギーはけっこう強く、親子ではなくあなたが必要というものを求めている。</p>
<p>渡辺（正） 委員</p>	<p>そうなる、お子さんはどこかでみてください。</p>
<p>坂井輪地区 公民館 阿部館長</p>	<p>例えば、学校に行っている時間帯とか。</p>
<p>渡辺（正） 委員</p>	<p>そういうことなのですね。</p>
<p>横坂委員</p>	<p>そうなのです。生き生きとします。</p>
<p>郷議長</p>	<p>母子ぐるみで学ぶというのが公民館のよさで、母になる前のキャリアを活かせる。そういったものを後押しをし、支援者と支援されたい人が見えるほうがいい。今、申し込みも全部パソコンになってしまい、公民館の方と話すということが減っていて、人がつくられるというところは少し希薄になりつつあるのかなど。そのようなことも感じます。</p>

渡辺（正） 委員	受益者負担の話が出ましたけれども、家庭教育関係について、家庭に厳し負担ということはいかがなものかというお話がありましたね。そういう観点からいけば、公民館の使用料が5年目に入ったので、その見直しが必要かどうかという話題が出たようなのですけれども、これなどは検討の価値があるのかどうかということですよ。
坂井輪地区 公民館 阿部館長	今まで無料だったところと有料だったところが一緒になってあの金額が設定されているので、ここでまた使用料を上げようというとなかなか難しい。 使用料については、もうそろそろ上げてもいいのではないかという話があれば、中央公民館に話を上げていきます。
佐藤委員	今日の検討事項、全部見てきたのですが、あまりにも多岐に渡っていて、30分、40分、1時間でやるような内容ではない。ある程度この問題に絞って、皆さん、どうでしょうかというのであれば分かる。だから、もし答申してほしいものがあるのであれば、例えば使用料であるとか、今の受益者負担の問題とか、もっと公民館を利用しやすくするためにはという課題があって、公民館ではこういう検討をしているのだけれど、うまくいきませんか、そういう形でしてもらわないと。地域によって相当違うし、分館の問題などは地域によってまったく違うわけだから、それを整理して意見をもらいたい。
坂井輪地区 公民館 阿部館長	5年以上経って、今できるところから何とかやっていこうということで分館の整理を始めたところもあり、西新潟オープンカレッジみたいに実行委員会形式で参加者から参加費を取って講座をやるとか、そういったところを少しずつ手掛けている状況なので、ほかにもそういうことができるところがあるか、少しアイデア等があればお聞かせいただければということです。
郷議長	今、審議委員にご意見を聞きたいということは、公民館の講座の受益者負担ですか。
坂井輪地区 公民館 阿部館長	そうですね。とにかく事業費が削られて一番困っているこれを、どうやって継続していけるのかというと、予算がない中、講師に予算がかからない人をお願いするとか、それで講座の質が落ちたのでは意味がない。そうであれば、受講する人から少しは負担してもらうなど必要になってくるのかな。
郷議長	負担する部分は、その講座の講師料に当たるのですか。今までも、材料費は払っていましたが。講師料ということですか。
坂井輪地区 公民館 阿部館長	今までも実費だったのですが、これから、予算の中でかかっていた講師の謝礼をいかに減らすことができるのかというところ。ただ、講師の質を落とさないでいくには、やはり若干でも負担してもらうという、方法があるかですね。オープンカレッジの中でやる事業に対して負担を取っているけれども、公民館事業で何か受益者負担はしていないので、それが公民館事業となると、入っていけるのかどうかですね。

横坂委員	<p>年々減らされているわけですね。減らされる度に、その中でやろうと、段々小さくなっていくというのは、本当に生涯教育をするというのは、これだけが必要なのだと。実績を市に出していかないといけないと思うのです。公民館にしかできない事業をどのような形で訴えることが一番有効的なのかということをお教えいただきたいです。</p>
横坂委員	<p>ここで市民が本当に無料で学習をしていくのだと、そういう権利を市民はもっているのだというような、予算に合わせて小さくなっていくということが、市民の権利を小さくしていくような気がするのです。それを有効に使えるように公民館も頑張ってもらって、公民館ではできない部分は、審議委員も、方法さえ分かればその方法に沿います。</p>
佐藤委員	<p>横坂委員がおっしゃるとおり、縮小するからその中で何とかやろうでは、今度はじり貧になるだけなので、予算をきちんと獲得しなければいけないと思うのです。予算がなくなって家庭教育学級をしなくてもいいのか。新潟市は子育てをどうするのかというところまでいってしまう。それを、どのような方法をすれば、私たちは応援できるのかお教えいただきたいのです。</p>
郷議長	<p>公民館のあり方検討会があって、公民館改革宣言があり、審議会委員としてフォーラムや公民館職員の学習会に出て、一緒に公民館のことを学び合った。そしてやはり公民館が生涯学習の新潟市の最後の砦で、でもまた予算がなくなって小さくなっていくという、ここを食い止めるには、利用者数を上げていくというところに私たちが協力して行って、サークルもできて利用者数も増えて、公民館を利用したいという方がたくさんいるというところ。お金がないのは、あちこちから聞こえてくるので、その中で守るべき最後の家庭教育学級の中でどこを受益者負担なのか。講師料がその講座に対しての負担ということですね。</p>
坂井輪地区 公民館 阿部館長	<p>そうだと思います。</p>
郷議長	<p>カルチャーセンターなどというものと本当に変わらなくなって、公民館で学ばせてもらったからフィードバックしようという循環型学習をする受講者がいて、公民館というものが成り立っているように思うのです。それがなくなってしまうと、生涯教育ではなくなってしまう。公民館の存在意義は何なのだろうということにもつながっていってしまうような気がします。</p>
横坂委員	<p>カルチャーセンターは、循環型ではなく、自分が幸せになればいいのですよね。でも公民館というのは、そこから地域が豊かになり、社会が豊かになりということを考えていくものだと思うのですけれど。</p>
郷議長	<p>公民館でいろいろ学ばせてもらったから地域貢献しなければという委員がここにいるので、その循環型学習を新潟市が進めていくために公民館があるのだと思っていますが、今は返す人がいなくなって社会が変わってきている。</p>

渡辺（正） 委員	公民館に返す人がいなくなってきたと。それで受益者負担という方向に走りつつあると、こういう雰囲気なのですね。
坂井輪地区 公民館 阿部館長	そういうことを言われると、むしろ返ってこなくなるということですよ。
佐藤委員	新潟市も、もともとは循環型の生涯学習社会を目指しますという基本計画があって、それでやってきたはずなのですが。社会教育は大事、生涯学習、社会循環型が大事みたいなことが、段々分からなくなってきたのではないかと。だから、基本をきちんと、公民館の職員の皆さんが発信してもらいたい。
渡辺（正） 委員	そういうことであれば、我々ができることは何だと。協力できることは何だという、問いかけたほうが、それでいいのではないですか。
佐藤委員	そうですね。
渡辺（正） 委員	やはり、そこにまとめるべきですよ。
郷議長	ありがとうございます。 公民館が活性化していくために私たち運営審議会ができること、利用者団体ができること、そして利用している人に働きかけることなどを、いろいろな知恵を尽くして考えていきたい、今の現状を踏まえてこういった話合いのときにはポイントを明確にしておこないたい。利用が少ない公民館は利用者数とか利用団体数とか、データを見せていただき、理由を少し整理してもらってきたい。こんなことを感じました。皆さんからいろいろ意見が出たのは、結果的に公民館頑張ろうよという声ではなかったかなと私は報告します。
坂井輪地区 公民館 阿部館長	ありがとうございます。
横坂委員	協力員を大事にしているときは活性化していますよね。長い間かかわっていると、公民館の職員の方々が協力員を大事にしているときというのは、やはり上がっている気がするのです。
郷議長	最後はまとまりがない意見交換になってしまいましたが、これで本日の議事は終了ということで、事務局にお返ししたいと思います。ありがとうございました。
坂井輪地区 公民館 阿部館長	ありがとうございました。